

創学舎ニユース

No.268

卒業おめでとう

今年も創学舎では、小中高あわせて300人以上の生徒が卒業式を迎えた。引き続き創学舎の中学部、大学受験部に通う人は別として、とりあえずのお別れである。特に高3生とは、これから再び会うことはないのかも知れない。それぞれの卒業を祝うとともに、これからの人生に幸多からんことを祈る気持ちでいっぱいである。

一体、卒業とか別れとかは、人間の宿命である。いつまでもここにいてはいけない。新しい場所で、新しい心持ちで、新しい世界で生きていきなさい。そうやって、人の背中をおす儀式なのである。卒業式の日からもうずい分と日が経ってしまつた人もいて、その日の感動や淋しさや決意というものは、すでに色あせてしまつてい



るかもしれない。しかし、まちがなくなきみ達は、一つの儀式を通過したのだ。成長に向かつて、一歩進んだのだ。だから、めでたいのだ。本当によかつたのだ。

今は、よりよく生きることが難しく、家族のつながりも希薄になりつつある時代である。大人の成熟が遅れ、価値観も多様化し、

政治や経済のひずみが拡大、いろんなあやうさの漂う時代である。その中で生きる子供達を見れば、一人一人の個性も基本的な資質は素晴らしくとも、精神的な面の成長は明らかに遅れている。

親子の関係が、ギクシヤクしている家庭も少なからず見受けられる。家庭内の問題で相談を受けることも多くなつた。家族がもめている中で、受験に臨まざるを得なかつた生徒も少なくない。また、学校に通えなかつたり、いじめにあつたりして、受験勉強以前に、自分の生を支えることで必死であつた生徒もいた。それでもやはり、卒業できたことはよかつたのだ。よくがんばつた。



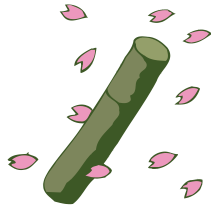
さて、きみ達がおそらくは誰からも語られることのない話をしておこう。それは、きみの卒業を迎えた親の気持ちのことだ。卒業式の朝から親達の胸はいつぱいだつたのだ。いつも無口な父親かもしれない。小言しかいわないし、きみのことに無関心ときみには見える親かもしれない。きみの進路に不満をもっている親かもしれない。それでも、親はみな、きみのことを考えていたのだ。

きみが、生まれたときのこと、病気になるたときのこと、きみが初めて歩いたときのこと、つらかつた日々のこと…。入園式、入学式、運動会のこと、卒園式や卒業式のこと…。自分自身の子育てへの後悔もあるだろうし、

これからの心配もあるだろう。きみが、卒業式の日に遠い記憶からいろんなことをたくり寄せ様々な感情を味わつたのと同様に、いやそれ以上に親も、心のアルバムからきみと自分のページをめくっていたのだ。

そして、卒業式。式が始まつた瞬間から親は、自分の中の様々な思いを抱きつつ、ある事に集中した。そつ、きみの姿を見つけ、きみの名前がよばれるのを聞き、きみの返事を聞くことに。そして、きみが少ししかしまりはにかんで前に進み、階段を登り、証書を受け取り、再び、自分の席にもどるまで。親の眼はずっときみを追つた。一つの動きも見逃すまいと…。他の誰がこんなことをするだろう。そしてそして、親の眼はきつと濡れていた。きみの成長を確かめられたからだ。ともかくもここまですられたことを確かめられたからだ。

きみも大変だつただろうが、親も大変だつたのだ。だから、きみにとつての慶事を喜んではない親などいるはずはない。自分と喜びを共有していないと思われるとしても、それはウソだ。親は間違いなく喜んでい



ただ、親自身の人生がうまくいっていない。心の整理ができていないからだ。きみの成長を喜んでいても、そのことに気付かず、今は別の苦しい思いが彼や彼女の心を支配しているからだ(だから憎むな。きみが成長しろ)。

ところで、この時期になると思うことが他にもある。私達は、きみ達の目標突破に力を貸せただろうか。きみ達の思いを充分に受けとめられただろうか。私達の思いはきみ達に届いたのか…。そしてまた思う。きみ達に会えてよかつた。きみ達の顔も声も笑顔も涙もしばらくは忘れないだろう。ありがとう。

最後になる。人が背負う荷物のも重さも種類も、それぞれに違つが、みんな幸福になるために生まれてきたのだ。健康に留意し、心を広く、友人を大事にし、家族に感謝し、豊かな趣味をもち、学び、自分が心から望むものを見つけ、しかし社会の害になることはせず、自分になれる最良の自分になりなさい。

(小林(健))

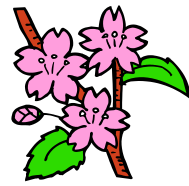
合格発表

今年も3月6日(木)に公立高校の合格発表の日をむかえた。毎年、この日だけは生徒と同じような気持ちで緊張しながら朝をむかえる。どういふ結果が待ち受けているのだろうか。とあれこれ想像してみたりもする。毎年、「全員合格」してもらいたいと思つてい



るが、なかなかうまくはいかない。私自身の公立高校合格発表の日、今でも鮮明に覚えている。不合格の可能性もあつた

ので9時発表の10分過ぎに着くように行つた。バスに乗っていると、ラジオから各学校の合格者の受験番号が流れてきた。ちょうどあと少しで学校に着くといふときに自分の番号がないことをラジオで知ってしまった。本当かどうか確かめるために掲示を見に行くと、やはりなかった。「不合格」だったのである。今思えばいろいろと分析することができが、そのときはただただ悔しさだけがあった。何日か家から出る気も起きないくらいだった。



ある日、気持ちも落ち着いたのでお世話になった塾の先生のところへ顔を出した。そのときに、私の恩師が、「大丈夫。高校受験ではうまくいかなかったけど、大学受験ではうまくいくから。」と言ってくれた。その言葉を聞いた時は、高校受験でうまくいかない生徒が大学受験でうまくいくわけがないと思つたのだが、高校に入ってから理由がわかった。以前、「何度でも」という題で述べたように、私は残念ながら繰り返しの重要性やバランスよく勉強することなどそのやり方がわかった気になっていただけで、実践はできていなかったのだ。そして無我夢中で冬期講習のテキストを28回繰り返し返して、やっと実践までたどりついたのである。そのことを知っている恩師は、今の勉強の仕方を持続すれば大丈夫。」と不合格に落胆している私に助言してくれたのである。高校ではその言葉を信

じ、同じようなやり方で勉強を続けていくうちに、少しずつ順位もあがっていき、大学受験への基礎作りができた。

私の場合、受験勉強で会得した勉強のやり方は、勉強以外のことでも応用し、活かされた。たとえば、今まで宿題やレポートなどの提出物を忘れることがあったが、提出物と期限を一覧表にして書きだし、一つ一つ用意をしたら消していくようになった。それ以外にも、何か行事をするにしても目標を決めたらそれに向けてどのようにしていくかということ考えて、計画を立てて実行していくことができるようになった。私は受験勉強を通して、効率よく正確に何かを成し遂げるにはどうすればよいのかを学んでいたのである。

塾では3月から新学年となり、期待と不安もあると思う。さらに、部活などが忙しくなりだんだんつらくなる。そういう時こそ、何か一つ毎日これだけはやるということを決めておく。例えば、毎朝腕立て伏せをするか、中3生なら副教材を1ページは必ずやるなど。そうすることで、自分なりのリズムができる。リズムができてくると体調も維持できるし、何より時間の使い方を考えるようになるので、塾の授業なども効果的に受けることができる。これらを継続することで成績も良い方へ変わっていく。だから、今は一日一つでも前へ進もう。



(小林(英))

入試 お疲れ様

今年も受験が終わった。受験生もわれわれもやっと一息ついたところだ。毎年のものであるが、受験生の頑張りには頭が下がる。最後の入試、公立高校の一般入試初日、学力試験を終えて教室に自己採点に来てくれた生徒の言葉。



「こうやってポーンとする時間がずっと欲しかったんだ」「ドラマとか一年間見てなかったなあ」「この春休みは遊ぶぞ」

どの生徒も受験に向けて、やりたいことを控え、やるべきことに力を注いできた。ポーンとする間も惜しんで。全員第一志望合格とはならなかったが、とにかく頑張ってきた。目標に向かい努力する姿はすばらしい。中学生というまだまだ人生はこれからという年齢にも関わらず、これほど自分を制して行動できるものなのかと改めて思い知らされる。人間の可能性は、その子の可能性はどんどん広がっていく。たとえ結果が希望通りにならなかったとしても、受験を通して身につけたことは、これからの人生で大きな力となるだろう。

これを読んでいる卒業生の諸君、お疲れ様でした。そして、卒業おめでとう。これからの人生を充実したものにするために、新たな

環境でまた頑張ろう。

そして、後輩の皆さん。皆さんも順番に受験学年へと進級していく。当然の事ながら、君たちにとっては初めての受験である。いまから、だんだん受験生になっていく。「今日から3年生だ。」「受験学年だ。」と言われて、「はいそうです。」「今日から頑張ります。」と切り替わるものでもない。これからの学習を通して立派な受験生になって欲しい。

我々は君たちが受験生になり、そしてその先入学試験を迎えるサポートをしている。毎年経験したことを踏まえて、皆さんにどういう風に学習に対して取り組んで欲しいか、受験に対してどのように向かっていったら欲しいかということ伝えていく。皆さんはそのアドバイスを段々身に付け、行動に移し、力をつけていく。

君たちが立派な受験生になるために、そして人生を力強く歩んでいくためのサポートをさせて頂くわれわれも、受験を通し様々なことを学び成長していく。われわれとともに、成長して、力をつけていこう。(松永)

▲ 継続希望の方へ ▲

- ▶ 卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶ 在籍していた教室までご連絡下さい。

創学舎の本

愛の壁

- お父さんお母さんあなたの愛は子供に届いていますか
著者：小林 憲右
2006年5月1日発行(1,500円税込)

新星堂他全国書店にて
好評発売中!